

下臆

「この下郎が！」
どこかの時代劇で聞
こえる台詞です。この



下郎の語源、下臆を今回ご紹介させていただきます。

まず、臆とは、出家してからの年数を指します。仏教
教団の序列は、この臆の長さによって決められていまし
た。出家し、夏安居という雨季の間の修業期間を終える
と出家者として年齢が加算されます。その長さによって
上臆中臆下臆と分けられました。下臆は、修行年数の少
ない僧侶の事を指していたのです。

その分け方が日本の宮廷にも用いられ、平安時代にな
ると年功序列を基準として上臆中臆下臆と区別されま
した。下臆はだんだん、官位が低い、素性が良くないと
意味を変え、下郎の字を当てたという説もあります。

また年功序列のことを臆次といい、これに反すると
臆次がないといえます。さらに、駄という価値が低いと

いう意味をたして駄臆次がないとなりま
す。無秩序で乱雑なことをだらしなしい
い、その語源が下郎の元の字臆に隠されて
いたのです。



健康一番！
立派な煩惱です。

若任取

こんなところに 仏教用語

身近な仏教用
語を紹介して
います。

仮和合

西光寺には、子ど
もがいつでも遊べ
るようにレゴを置



いています。レゴ程個性がでる玩具は他にはないでしょう。ロ
ボットを作る子、お城を作る子、部屋を作る子、動物を作る子。
それらでできた作品は、いずれもがレゴが集まり重なりできたも
のです。その集まりが、ロボットに似ていたらロボットとなり
ます。レゴが仮に集まり和合していろんな形となるのです。

これを仮和合といいます。仏教の世界観を知るのに大切な言
葉です。我々の世界は、自分も含めて様々な縁が重なり構成さ
れています。仮に和合している存在であるということです。縁も、
どんどん変わります。見かけ上は変わっていないように見えま
すが、少しずつ少しずつ変化しています。同じ状態のものなど
何一つないのです。諸行無常で諸法無我だから、すべてのもの
は空である。だから、あらゆるものに固執してはならない。固執
すると苦しみが生じるのです。握りしめるのではなく、手放し
ていくのです。

でもそれがなかなか難しい。難しいから
こそ、法蔵菩薩は決意され、阿弥陀仏と成
られたのです。

